第二講　日本文化論

同時にいくつもの像を重ねて見ること、事象の境界を不確定にすること、こうした見方ないしは操作は、空間に関連している。

＜境界がさだかでない＞という現象は、日本の空間、より範囲を狭くすれば日本の建築空間の特性である。言葉をかえれば、境界があると同時に境界がないような空間の連続性、あるいは領域の仕切り方があらゆるところに見うけられる。つまり、日本の建築には強い壁が少ない。ふすまや障子がその好例であり、部屋の境界は可変的である。都市に城壁はなく、家の敷地にも一般的にいえば強い境界はない。「借景」[注]が、ひとつの美学的な手法になっているほどである。部屋の外に縁があり、その外に軒下のあいまいな領域がある。まったく日本の住居ほど領域分析がやっかいな住居はない。世界の伝統的な住居について領域分析をするのは、もちろん例外はいくらでもあるが、日本の住居ほどやっかいでない。壁によってかこまれた部屋があるからである。アフリカの複合住居（コンパウンド）のように、極めて複雑な構成をもっていても、領域分析は容易である。日本の住居は、障子をはずす、ふすまをはずすといった想定を入れれば、壁とは異なったあいまいな領域規定の要素を導入しないかぎり、通常の分析はまず不可能である。そうした仕切り方からくる分析は、日本の伝統的な住居には適していない。こうした確かな境界としての壁をたよりにした空間把握、＜容器としての性格＞に拠った空間把握が主調となっていないからである。

日本の伝統的住居の領域分析は、たとえば、はれとけ、表と裏、上手と下手、縁と奥といったような[A]傾向分析によってとらえられてきた。これをより一般化すると、「しつらえ」であり「座」である。これらは、領域を漠然と指定する手段であり、見えない領域に秩序をあたえる方法である。このような概念は、物理的な壁（エンクロージャー）がなくとも、空間を＜場としての性格＞でとらえるところから生まれている。

こうした日本の空間にみられる特性は、従来、気候条件や生産方式によって説明されてきたが、それももちろん妥当な説明である。しかし、日本の空間には、身体的な快適さや技術にあわせて、境界を明確にしない方がよいとする価値観があり、そうした美学が日本の空間の諸形式を決定してきたと思われる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

B　閑(しづか)さや岩にしみ入(いる)蝉の声　　芭蕉

芭蕉によって一挙にその意味の重みが明らかにされた「しみる」という動詞は、日本の文化の性格を説明する術語のひとつである。日本人なら、まず知らない者はいないと思われるこの句は、説明の要もなく、境界についてのメタファ(注)である。実際のところ、事象が融合する様相は、美しい風景のひとつの条件として、今日なお日本人の価値観のなかに生きつづけているように思われる。たとえば、融合は、霞(かすみ)と花（桜）にみられる。霞や花は、もともと境界が定かでなく、不定形である。不定形なものの相互の融合、判然としない色彩相互の浸透、不安定な音相互の重ね合わせ、これらは、日本中世の絵画や書や音楽の手法というより基本的な特性にみられるばかりでなく、日常の情景あるいは風景にあって価値づけられていたのではないだろうか。

（原　広司『空間〈機能から様相へ〉』による）

（注）○借景――庭園外の遠山や樹木などを、庭園の景観にとり入れること。
○メタファ――metaphor　隠喩(いんゆ)（暗喩）・間接的にものがたる。

問１　傍線部Ａ「傾向分析」とは、どのような分析のことか。最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

① 確かな境界としての壁をたよりにした物理的な分析
② 社会的な上位・下位の関係を絶対的な基準とした分析
③ 境界がきわめて不明確で、形が定まらない抽象的な分析
④ 特定の主義に基づく、一つの方向にかたよった主観的な分析
⑤ 見えない領域に、ある価値観から相対的な秩序をあたえる分析

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問２　傍線部Ｂ「閑さや岩にしみ入蟬の声」という句の、筆者の論旨に即した鑑賞として、最も適当なものはどれか。次のうちから一つ選べ。

① 「しみ入」という表現は、蟬の声が強い境界を持つ岩の深部に浸透していく感じをあたえる。その声がひたむきであればあるほど、蟬の生の切なさを感じさせ、それがまた一生を旅に送った芭蕉の「漂泊の思い」の強さをも象徴している。

② 「岩にしみ入」と感じられる声の性質からすると、一匹の蟬の声が青空に鋭く響いているのであろう。とかく騒がしいものとされる蟬の声を、「閑さ」を深めるものとしてとらえたところに、芭蕉の美学の独自性がうかがわれる。

③ 蟬の声は岩という強い境界をもつ物体にしみ入り、山寺の大いなる「閑さ」の中に吸いとられていく。このような事象の相互浸透性や融合性を一句の中にみごとに定着させた芭蕉の言葉づかいと高い境地を味わうべきである。

④ 「しみ入」という表現は、芭蕉の理想とした「さび」の境地を示すものである。また、山寺の「閑さ」にひたり自然と一体化している芭蕉の姿には、事象を融合し、境界を不明確にすることをよしとする日本人の美学が示されている。

⑤ 静中の動をとらえて、同時に動中の静を感じさせる句である。この静と動の相互浸透をよしとするのが日本文化の伝統であり、その伝統に根ざしつつ、さらに高次の「閑さ」の境地をとらえたところに蕉風俳諧（しょうふうはいかい）の質の高さが認められる。

問３　日本人の空間把握の特性について、筆者はどのように考えているか。最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。

① いくつもの像を重ね合わせたり、事象の境界を不確定にしたりすることによって、仮想の空間に美を構築する方法は、芸術ばかりでなく、日本文化全般に及んでいる。

② 日本の気候条件や生産方式などによって培われた美意識が、身体的な快適さや合理的な技術以上のものを求め、不定形なものの相互の融合を進めてきたのである。

③ 境界をあいまいにして、空間の連続性を認めようとする考え方は、「借景」に見られるような、自然を畏敬（いけい）するという中世以来の伝統的自然観によるものである。

④ 日本の伝統的な住宅や敷地に明確な境界がないのは、日本人があいまいさを好む美意識をもっているからであり、それは空間意識の欠如を示すものである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑤　日本人は、意識の根底に境界を明確にしない方がよいとする価値観を有し、不定形なものの重なり合いや事象の融合する様相に美を認めようとしてきたのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　知識モノ解説

語句

はれ↓非日常・特別

け↓日常

アニミズム↓自然界のあらゆるものの中に魂を見出す考え方・日本文化の特徴といわれる

語源……ラテン語の「アニマ」↓魂・こころ

派生語……英語の「アニマル」「アニメーション」

関連語……英語の「ゴースト」↓こころ・精神・幽霊　ドイツ語「ガイスト」↓こころ・精神・幽霊

妥当＝だとう↓受け入れ可能・ＯＫ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

（ア）部屋の境界はカヘン的である
①家　②可　③化　④下　⑤荷

（イ）日本建築の特徴を示すコウレイ
①好　②公　③効　④巧　⑤功

（ウ）障子をはずすというソウテイで考える
①体　②態　③呈　④定　⑤底

（エ）ダトウといえる説明である
①堕　②打　③妥　④惰　⑤陀

（オ）ハンゼンとしない色の混じり合い
①範　②判　③汎　④反　⑤伴

（カ）しっかりとハアクする
①覇　②破　③派　④羽　⑤把

（キ）色彩が相互にシントウする
①進　②侵　③浸　④深　⑤心

（ク）事象がユウゴウする様子
①融　②誘　③遊　④友　⑤宥

（ケ）ものごとを対立的にとらえるシュウセイ
①衆　②執　③習　④週　⑤集

（コ）キュウキョクの目標
①糾　②朽　③求　④究　⑤仇

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　日本文化論

《本文の対比構造》

主役

筆者の見解＝日本建築の特徴
＝境界が定かでない・空間の連続性・あいまい・傾向分析・場としての性格・しみる・融合・相互の浸透・重ね合わせ・見えない領域に秩序をあたえる・日本の美学・価値観

主な対比（主役 ⇔ 敵役）

小さな対比（主役 ⇔ 脇役）

敵役

外国の建築の特徴＝強い境界・壁・物理的・領域分析・容器としての性格

脇役

日本についての従来の見解・一般論
＝気候条件や生産方式・身体的な快適さや技術

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《傍線部説明・選択肢》

まず「傾向分析」が、筆者が主張する日本建築の特徴だと理解できることが大事。そうなれば《本文の対比構造》の通り、⑤が正解。①は「壁」「物理的」とあるように外国側の特徴を挙げています。対比混乱の誤りです。②の「絶対的」は、直接本文にはない語ですが、外国側と判断できます。したがって、これも対比混乱の誤りです。③は「抽象的」が×。というのも、日本建築も外国建築も両者とも「ふすまや障子」「壁」など具体的なものを扱っています。つまり「抽象⟷具体」という対比ではありません。正しい対比喪失の誤りです。④は「主観的」はよいのです。ただしそれは文中の「価値観」を言い換えたものとしてならＯＫということです。ところが、この選択肢は、「かたよった」と表現しており、ダメです。「主観」だから「気分や好き嫌いがでる」かのような決めつけは文脈とは無関係です。こういうのを文脈喪失の誤りといいます。

問２《傍線部説明・選択肢》

この俳句は日本建築、日本文化を語る「しみる」「しみ入」という術語＝キーワードを含んでいるという点が重要です。つまりこれも筆者側の見解を問う設問です。したがって「相互浸透性」「融合性」との説明をしている③が正解。これ以外は、ことごとく本文中にはない変なものを比べている間違いです。すなわち、「日本・浸透⟷外国・強い境界」が正しい対比なのに、①は「ひたむき」一生懸命となまけ・怠惰とを比べているかのようです。②は「騒がしい」と「閑さ」を比べています。④は「さび」つまり枯れた味わいを挙げ、外国はぴかぴかの新品が好きであるかのような対比を想定してしまっています。⑤は「静⟷動」という対比で、もはや「しらじらしー」と叫びそうです。つまりことごとく正しい対比喪失の誤りなのです。

問３《全体の要旨説明・選択肢》

①は「仮想」が誤り。すべて現実です。夢の中の建築の話ではありません。②は「気候条件や生産方式」と「美意識」という筆者が区別している（対比させている）もの同士を「培われた」との表現で同種扱いしています。これも対比混乱の誤りと呼ぶべきです。このように本文中の対比関係を正しく読み取れていることが「文章読解力」なのです。入試もそこを確かめる

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ような問と選択肢を繰り出してくるのです。③は「自然を畏敬（おそれうやまう）」が×。まるで外国は自然を軽んじて破壊しているかのような対比を想定しています。正しい対比喪失の誤りです。④は「空間意識の欠如」が×です。日本も外国のそれぞれの空間意識を「有している」のです。「あり・なし」の対比ではない。したがって正しい対比喪失と呼んでもよいですし、そもそも全文で日本人の空間意識のあり方をかたっているわけです。その内容に反します。つまり記述に反する誤りでしょう。⑤がパーフェクトな答えです。

模範解答

問１＝⑤　問２＝③　問３＝⑤

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第二講

（ア）②　（イ）①　（ウ）④　（エ）③　（オ）②
（カ）⑤　（キ）③　（ク）①　（ケ）③　（コ）④

解答漢字一覧

（ア）可変　（イ）好例　（ウ）想定　（エ）妥当　（オ）判然
（カ）把握　（キ）浸透　（ク）融合　（ケ）習性　（コ）究極（窮極）

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。